議会の２つの常任委員会が年間テーマを調査・提言！

能美市議会では、総務産業常任委員会と教育福祉常任委員会の２つの委員会が、市政の重要な事項について年間テーマを決めて、昨年 10 月から調査研究に取り組んできました。９月定例会でその結果を報告、提言を行いました。
今回はその概要をお伝えいたします。

詳しくはコチラ！

テーマ ウォーター PPP（上下水道分野の官民連携）

総務産業常任委員会

概要、調査目的

市民の暮らしを支える上下水道

持続可能な事業運営に向けて官民が連携する「ウォーターＰＰＰ（上下水道分野の官民連携）」の調査・研究を行いました。先進地視察を通じて、民間任せにするのではなく、行政が発注者として主体性を持って事業の実施状況を確認し、自らの技術力を維持し続ける重要性が確認されました。

上下水道事業が抱える課題

全国の自治体と同様に施設や管路の老朽化が進む一方で、人口減少に伴う料金収入の伸び悩み、技術系職員の不足や高齢化、災害時の迅速な復旧体制の確保など、さまざまな課題に直面しています。
※ウォーター PPP の活用が注目されています。


▲神奈川県庁での視察

先進地視察

○神奈川県企業庁が発注する箱根地区水道事業包括委託
行政が事業主体となり、民間事業者に水道施設の維持管理業務を中心とした委託を行うものです。

○三浦市公共下水道コンセッション事業
民間事業者に施設運営権を設定し、料金収受、管路施設の増築・改築を含む事業運営を包括的に委ねるものです。


▲三浦市での視察

持続可能な事業運営の確保に向けた３つの提言

調査結果を踏まえ、委員会では次の３点を市に提言しました。

1．施設台帳などの基礎情報を着実に整備し、施設・管路の現状把握と更新需要の見通しを明確にすること。
2．行政が発注者としての責任を果たすため、「技術力とモニタリング能力の維持・強化」及び「人材育成と技術継承」に取り組むこと。
3．各事業の特性に応じた「段階的な官民連携も視野に入れた計画的な準備」を進めること。

市民の皆さまの暮らしを支える上下水道サービスを将来にわたり安定的に提供し続けるため、能美市に最も適した持続可能な仕組みづくりに向けた取組を、計画的かつ早急に進めるよう求めています。

テーマ 能美市立病院のあり方

教育福祉常任委員会

概要、調査目的

市民に必要な新病院を目指して

能美市立病院は近年、多くの経営課題解決とともに、建物の老朽化への対応が求められています。
市では、令和８年５月に「能美市立病院　新病院基本構想」を策定し、この構想のもと今後は、具体的な「新病院基本計画」を策定します。
当委員会では今後策定される「新病院基本計画」に意見を反映するため、先進事例の視察、市民の意見聞き取り等により調査研究を実施しました。

市立病院が抱える課題

医師、看護師等の確保や、外来患者の減、施設の老朽化、病床数の適正化などに加え、近年の市一般会計からの交付税措置のない繰入金の状況から見える病院経営の状況や、建設費・人件費の高騰の中での新病院建設に係る収支など、さまざまな課題があります。

市民との意見交換会

７月 21 日、「町会・町内会」「女性会」「老人クラブ連合会」「民生委員児童委員協議会」「PTA」からと、「市立病院利用者」にお集まりいただき
・どのような病院が必要か。
・どのような病院が欲しいか。
・医療機関の連携はどのようにあるとよいか。
をテーマに、活発に意見交換が行われました。


▲意見交換会では全体会、３班の班別で議論が交わされました

「新病院基本計画」策定にあたり４つの提言

調査結果を踏まえ、委員会では次の４点を市に提言しました。

1．新病院の立地場所の選定にあたっては、選定理由を示し、市民の理解を得られるよう努める。
2．新病院建設前から事業採算性の向上を図り、赤字額の圧縮を図るとともに、新病院建設の財源計画を示す。
3．コスト・品質・工期のバランスを考え、「CM 方式」や「ECI 方式」の採用など、最適な発注方式を検討する。
4．市内や周辺自治体の病院とのバランスや役割分担を見極め、南加賀全体を見据えた広域連携を図るとともに、運営形態についても調査研究する。

能美市立病院が、市民の皆さまから信頼され、必要とされ続ける地域医療の中核として、その役割を将来にわたり果たすことに、大きな期待を寄せ、引き続き、新病院建設への対応に注視し、必要な支援と提言を行っていきます。